慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	南隆男 略歴・主要業績
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	2009
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 : 人間と社会の探究 (Studies in sociology, psychology and education : inquiries into humans and societies). No.67 (2009.) ,p.141- 145
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2008年度定年退職者略歴・著作目録一覧
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00069 57X-00000067-0141

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

『第10回学生生活実態調査報告書』（共著）平成11年7月，日本私立大学連盟　学生部会第一分科会。

南　隆男　略歴・主要業績

（2009年1月31日現在）

［略歴］

［生年月日］

1944年（昭和19年）1月4日

［学歴］

1967年 3月　慶應義塾大学文学部社会・心理・教育学科心理学専攻卒業
1969年 3月　慶應義塾大学大学院社会学研究科修士課程修了
1971年 7月　イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所修士課程修了
1975年11月　イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所博士課程修了
1975年11月　労資関係学　博士学位取得（Ph.D. イリノイ大学）

【職歴】

1969年 9月　イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所　研究助手（～1972年1月）
1973年 9月　イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所　研究員（～1975年11月）
1975年12月　慶應義塾大学文学部　助手（～1978年3月）
1977年 4月　慶應義塾大学 産業研究所（行動科学部門）研究員（～現在）
1978年 4月　慶應義塾大学文学部　助教授（～1989年3月）
1978年 8月　イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所　客員准教授（～1978年10月）
1989年 4月　慶應義塾大学文学部　教授（～現在）
1989年 9月　イリノイ大学大学院労働・産業関係研究所　客員教授　［フルブライト上級研究員］（～1990年3月）
1996年2月　カリフォルニア大学バークレイ校心理学部　客員教授（～1996年3月）

この間，中京大学文学部，東北大学大学院文学研究科・教育学研究科，名古屋大学大学院教育学研究科，日本大学大学院グローバル・ビジネス研究科，立教大学社会学部で非常勤講師を勤める。

［塾内役職］

1978年10月　文学部学習指導副主任（～1980年9月）
1980年10月　文学部学習指導副主任（～1981年9月）
1981年10月　大学院社会学研究科委員長補佐（～1983年9月）
1983年10月　大学院社会学研究科委員長補佐（～1985年9月）

1985年10月　　大学院社会学研究科委員長補佐（～ 1987年9月）
1991年 4月　　大学院社会学研究科委員（～現在）
1997年11月　　大学院社会学研究科学習指導委員（～ 1999年3月）
2001年10月　　大学院社会学研究科学習指導委員（～ 2003年9月）

［学会活動］
「産業・組織心理学会」「日本応用心理学会」「日本社会心理学会」「日本心理学会」「日本グループ・ダイナミックス学会」「組織学会」「人材育成学会」「しごと能力研究学会」「日本労務学会」「産業ストレス学会」「日本産業カウンセリング学会」「日本家族社会学会」「国際応用心理学会」(International Association of Applied Psychology; IAAP)「国際心理学会議」(International Congress of Psychology; ICP)に所属。

1985年 8月　　産業・組織心理学会　常任理事（～ 2007年3月）
1989年 4月　　国際応用心理学会 「第22回京都大会」プログラム委員会委員（～ 1991年3月）
1990年10月　　組織学会　理事（～ 2000年9月）
1993年 4月　　産業ストレス学会　評議員（～ 1996年3月）
1994年 4月　　日本社会心理学会　編集委員（～ 1997年3月）
1995年10月　　日本心理学会　編集委員（～ 2001年9月）
1998年 4月　　日本産業カウンセリング学会　大会委員（～ 1999年3月）
2000年 4月　　日本労務学会　学会賞選考委員（～ 2002年3月）
2003年 4月　　日本応用心理学会　常任理事（～現在）
2003年12月　　人材育成学会　理事（～現在）
2007年 4月　　産業・組織心理学会　理事（～現在）
2007年11月　　しごと能力研究学会　理事（～現在）

この間，日本学術振興会「特別研究員等審査会」委員（1999年6月?2003年6月），日本労働研究機構（現，（独）労働政策・研修機構）「調査研究委員会」リサーチ・アドバイザー（2000年4月～現在），日本学術会議「行動科学研究連絡委員会」委員（2003年10月～ 2006年9月）を務める。

［主要業績一覧］
【学術論文】（「英文」に限定）

Dysfunctional leadership styles. *Organizational Behavior and Human Performance*, 1972, 8, pp. 262–236.

An empirical test of the “man in the middle” hypothesis among executives in a hierarchical organization employing a unit-set analysis.*Organizational Behavior and Human Performance*, 1972, 8, pp. 262–285.

Leadership behavior as cues to performance evaluation. *Academy of Management Journal*, 1973, 16, pp. 611–623.

Japanese organizational policies: A two-company comparison. Institute of Labor and Industrial Relations, University of Illinois at Urbana Champaign, October, 1974.

Effects of job enrichment upon perception, communication, and attribution processes. *Keio Studies on Organizational Behavior and Human Performance*, 1977, 2, pp. 79–100.

Transition from school to office: A longitudinal investigation of the process of the Japanese college graduates' becoming managers. *Keio Studies on Organizationl Behavior and Human Performance*, 1977, 1, pp. 88–107.

Japanese private university as a socialization system for future leaders in business and industry. *International Journal of Intercultural Relations*, 1977, 1, pp. 60–80.

Toward a theory of organizational career development: A longitudinal investigation of the role-making process of Japanese college graduates. *Philosophy*, 1978, 68, pp. 105–132.

Satisfaction-reward-performance relationships: A corelational-causal analysis. *Philosophy*, 1978, 67, pp. 147–171.

Management career progress: Japanese style. *International Journal of Intercultural Relations*, 1980, 4, pp. 391–420.

Task interdependence and internal motivation: Application of job characteristic model to "collectivist" cultures. *Philosophy*, 1983, 77, pp. 133–147.

The Japanese career progress study: A seven-year follow up. *Keio Studies on Organizational Behavior and Human Performance*, 1984, 11, pp. 63–80.

Managerial career progress in a Japanese organization: A 13-year longitudinal investigation. *Applied Psychology: An International Review*, 1989, 38, pp. 337–351.

Transfers of workers and the separation of families. *Economic Eye*, 1992, 13, pp. 23–25.

The emerging role of diversity and work-family values in a global context. *New perspectives on international industrial/organizational psychology*, San Francisco: The New Lexington Press, 1997, pp. 276–318.

【論説・論評等】（1981年以降，選択的に提示）

「〈われわれはなぜ働くのか〉をどう考えていくか―ワーク・モティベーション理論の展開―」『季刊マネジメント　ジャーナル』1981年8月。

「組織に働く人々のキャリア開発」『人事』1984年10月。

「ケース・スタディ／産業心理学：上司の方針変更」『LDノート』1988年6月。

「産業・組織心理学―組織のなかの人間行動を考える―」『人材教育』1989年1月～1991年3月。

「ソーシャル・サポート研究―研究の新しい流れと将来の展望―」『社会心理学研究』1990年3月。

「単身赴任をめぐって―実情と問題と対策―」『労働の科学』1991年8月。

「人間科学専攻をふりかえる―10年間の活動抄録―」（共著）『哲学』1992年3月。

「若者たちの夢と期待と希望，そして現実―1995年日本の〈進路選択〉と〈職業選択〉―」『Works』1995年11月。

「中年期男性の夢と現実―生涯キャリア発達論からのいくつかの風景―」『教育と医学』1996年10月。

「心理学のフィールドとしての経営―組織論と密接に共生関係を取り結ぶ〈組織行動論〉の心理学―」『経営学・入門』（『別冊宝島』373号）1998年4月。
「組織におけるメンタリングとエンパワーメント」『産業・組織心理学会第14回大会発表論文集』1998年8月。
「大学生の携帯電話利用の心理社会的背景」『日本応用心理学会第65回大会発表論文集』1998年9月。
「オフィス環境の変遷と変貌」『経営者』1999年4月。
「対人的ヒューマン・サービス専門家にとってのネットワーク」『看護教育』1999年8月。
「社会心理学における〈社会と人間〉」（共著）『日本社会心理学会第40回大会発表論文集』1999年10月。
「キャリア研究の最前線」（共著）『組織科学』1999年1月。
「伝統芸能の行方―歌舞伎との関わりを軸にして―」（共著）『國学院大学　栃木短期大学紀要』34号，2000年3月。
「伝統芸能の認知―歌舞伎との関わりを軸にして―」（共著）『國学院大学　栃木短期大学紀要』35号，2001年3月。
「成果主義の課題と展望」（共著）『組織科学』2001年3月。
「〈家族領域から仕事領域への葛藤〉の規定要因と女性の就業との関係」（共著）『家族と職業』2001年9月。
「人事アセスメント再生」（共著）『Works』2002年3月。
「大卒フリーターの未来を探せ」（共著）『Works』2004年8月。
「成熟社会における〈産業・組織心理学〉研究の課題」『産業・組織心理学会第20回大会発表論文集』2004年9月。
「職場におけるセクシャル・ハラスメント―その心理・社会的基底―」（共著）『労働の科学』2005年3月。
「長寿高齢社会における＜義＞の探求」『応用心理学研究』2006年1月。

【著書】

『日本の社会心理学』（人間探求の社会心理学・第5巻）（共編著）朝倉書店，1979年。
『組織の中の人間行動』（現代経営学・第5巻）（共編著）有斐閣，1982年。
『マーケティングと人間行動』（企業の行動科学シリーズ・第3巻）（共編著）泉文堂，1982年。
『カルチュア・ショックと日本人―異文化対応の時代を生きる―』（共著）有斐閣，1983年。
『キャリア・デベロップメント』（ビジネス戦略戦術講座・第17巻）（共編著）講談社，1988年。
『組織の行動科学』（応用心理学講座・第1巻）（共編著）福村出版，1988年。
『国際化と異文化教育―日本における実践と課題―』（〈現代のエスプリ〉No. 299）（共著）至文堂，1992年。
『地球社会時代をどう捉えるか―人間科学の課題と可能性―』（共著）ナカニシヤ出版，1992年。
『組織・職務と人間行動―効率と人間尊重との調和―』（新時代の人事・労務講座・第2巻）（共編著）ぎょうせい，1993年。
『集団帰属意識の変化と職業生活』（共著）日本労働研究機構，1998年。
『テレワーキングと職業観』（共著）日本労働研究機構，2000年。
『個人と会社を元気にするキャリア・カウンセリング』（共著）日本経済新聞社，2003年。

『コミュニケーション学がわかる』（共著）朝日新聞社，2004年。
『人事マネジメントハンドブック』（共編著）日本労務研究会，2004年。
『現代社会心理学』（共著）慶應義塾大学出版会，2005年。
『21世紀の心の処方学―医学・看護学・心理学からの提言と実践―』（共著）アート　アンド　ブレーン，2008年。

【事典・辞典】
『経営行動科学辞典』（共編）創成社，1986年（1998年に改訂新版）。
『ブリタニカ国際大百科事典』（共編）ブリタニカ・ジャパン，1995年。
『人材開発事典』（共編）日本マンパワー出版，1998年。
『経営学大事典』（共編）中央経済社，1999年。
『ブリタニカ国際大百科事典』（電子オンライン版）（共編）ブリタニカ・ジャパン，2009年。

【訳書】
『C型人間―最高のプレッシャーのなかで最大の力を発揮する―』講談社，1985年（1990年に講談社現代文庫として再刊）。（原題：Robert Kriegel & MarilynH. Kriegel. *The C zone: Peak performance under pressure*. Doubleday Gradon-City, New York: Anchor Press, 1984.）

【その他】
『組織行動研究』No. 1 ～ No. 30, 1977 ～ 2000年（責任編集）慶應義塾大学産業研究所（http//www.k-ris.keio.ac.jp/ で供覧）

小嶋祥三　略歴・著作目録一覧

（平成21年1月1日現在）

［生年月日］
昭和18年12月26日(東京都生まれ)

［学歴］
昭和39年4月　早稲田大学第一文学部哲学科心理学専修入学
昭和43年3月　同　卒業
昭和43年4月　早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻修士課程入学
昭和45年3月　同　修了
昭和45年4月　早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程入学
昭和47年1月　同　退学